

## 教員業績一覧（2015年度）

○五十嵐泰正

### 【共編著】

- 1 五十嵐泰正・明石純一編『移民・ディアスポラ研究4 「グローバル人材」をめぐる政策と現実』明石書店、2015年4月。（「序章 グローバル化の最前線が問いかける射程」を執筆担当、「第6章 〈討議〉海外就職の可能性」を構成担当）

### 【書評】

- 1 井上健一郎著『吉祥寺「ハモニカ横丁」物語』評、『新潟日報』、2015年7月26日。
- 2 「いつの世もげに難しきは人の縁、なれど……」（呉澤勇一著『一揆の原理』評）、『ちくま』No. 538、2015年12月、16～17ページ。

### 【ウェブ記事】

- 1 （インタビュー）「常磐線のイメージは「コモディティの供給地」」『Wedge Infinity』、2015年8月26日、<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/5285>。
- 2 （毛利嘉孝との対談）「新しい市民社会はどうすれば作り出せるのか(1)～(5)」『Wedge Infinity』、2015年10月24～28日、<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/5451>ほか。
- 3 （インタビュー）「GOOD PROFESSOR」『早稲田塾』、2015年11月12日、<http://www.wasedajuku.com/channel/good-professor/detail.php?professorid=640>。

### 【学会報告、講演など】

- 1 「消費者とブラック企業 ～モンスター消費者にならないために」『柏生活クラブ、柏市消費者の会勉強会』アミュゼ柏、2015年3月23日
- 2 （開沼博、小松理虔、東浩紀との討議）『「常磐線中心主義」刊行記念トークショー：線路はどこで途切れていたのか』ゲンロンカフェ、2015年4月8日。
- 3 （開沼博、大山昌彦との討議）『「常磐線中心主義〈ジョーバンセントリズム〉」刊行記念 「俺んち語り」の愉悦と憂鬱』B&B、2015年4月17日。
- 4 （コメンテーター）『「市（いち）」の都市論 - 仮設的社会空間の創造力』関東都市学会、玉川大学、2015年5月30日。
- 5 「社会的分断を越える協働とマーケティングの解決 ～柏の円卓会議の経験から～」『ICRP ダイアログセミナー』杉妻会館、2015年5月31日。
- 6 （中沢明子、山本一郎、速水健朗との討議）『「地方は都市の「下半身」なのか」』『coconala 未来会議リターンズ：＜地方＞の未来 - 「埼玉化する日本」と地方創生をめぐるって-』朝日新聞メディアラボ 渋谷分室、2015年6月6日。

- 7 (小松理虔との対談)「常磐線中心主義ナイト」フロッシュ, 2015年6月11日.
- 8 『『常磐線中心主義 (ジョーバンセントリズム)』』『上野開成会総会』東天紅本店, 2015年7月11日.
- 9 「社会的分断を越える協働とマーケティング的解決 ～柏の円卓会議の経験から～」『国際フォーラム 被災地・広野町から考える』広野町中央体育館, 2015年9月17日.
- 10 (久松達夫との対談)「常磐線中心主義ナイトII」NOB, 2015年10月7日.
- 11 「地域を読み解く新しい視点『常磐線中心主義 (ジョーバンセントリズム)』』『茨城県立大学』茨城県水戸生涯学習センター, 2015年10月14日.
- 12 「Challenges to overcome social gaps through coproduction — Practical action research in Kashiwa and Iwaki」『Thematic Session:Disaster, Risk and Sustainable Community』5<sup>th</sup> International Symposium on Environmental Sociology in East Asia, 東北大学, 2015年10月31日.
- 13 「人文社会系オーサービジット『みんなで決めた「安心」のかたち』』神奈川県立多摩高校, 2016年1月4日.
- 14 「Challenges to overcome social gaps through coproduction: Kashiwa's practical experience as a radioactive 'hotspot' after 3. 11」『Technical Meeting on Radiation, Health and Healing』International Atomic Energy Agency (IAEA), 福島県立医科大学, 2016年3月9日.

【メディア出演】

- 1 『荻上チキ Session22』TBSラジオ, 2015年4月7日.

○ウラノ・エジソン

【学会報告】

- ・「在日ブラジル人の現況と地方自治体および市民社会の取組み」, パネリスト, ラテン・アメリカ政経学会第52回全国大会, 2015年11月15日, 横浜国立大学常台キャンパス.

○樽川 典子

- ・「K. T ケース」『津波遺児家庭ケース記録集Ⅲ』326-334頁
- ・「N. T. ケース」『津波遺児家庭ケース記録集Ⅲ』335-351頁
- ・「W. K ケース」『津波遺児家庭ケース記録集Ⅲ』352-360頁

○土井 隆義

【著書】

- ・『子どもたちの風景-学校の日常をどう生きているか-』自由の森学園ブックレット, 2016年1月.

## 【論文】

- ・「萎縮する人生観－激減する少年犯罪の裏で－」『日本教育』445号，10～13頁，日本教育会，2015年6月。
- ・「社会の流動化とネット依存」『日本臨牀』第73巻(第9号)，1592～1596頁，2015年9月。
- ・「生活満足度と逸脱行動－少年犯罪と自殺の推移から考える－」『現代の社会病理』第30号，1～17頁，日本社会病理学会，2015年10月。
- ・「個性化教育のアイロニー－80年代教育改革の意図せざる結果－」斎藤美奈子・成田龍一編『1980年代』河出書房新社，2016年2月。

## 【書評】

- ・「毛利甚八『「家裁の人」から君への遺言』(2015)」2015年12月8日～30日(共同通信による全国各紙への配信)

## 【学会報告】

- ・「ひとりが怖い！－スマホ依存の虚と実－」第53回近畿児童青年精神保健懇話会「子どもの依存～スマホ・ゲーム依存～」2015年8月22日，関西医科大学。
- ・「現代青年の幸福観－その現状と課題－」日本学生相談学会・第53回全国学生相談研修会「特別講演」2015年11月15日，東京国際フォーラム。
- ・「リスク回避する若者，危険回避する老人－年齢層による逸脱行動の相違を考える－」日本犯罪社会学会・第42回大会シンポジウム「犯罪社会学におけるリスク社会論の意義」2015年11月22日，桐蔭横浜大学。

## 【その他】

- ・「自著を語る『つながりを煽られる子どもたち～ネット依存といじめ問題を考える』」『青少年問題』第658号，62頁，2015年4月。
- ・「「いいね！」でつながる若者の人間関係－仲間意識を縛る関係不安と共依存－」『国民生活』第33号，4～6頁，2015年4月15日，独立行政法人国民生活センター。
- ・「〈まなざしの天国〉という地獄を炙り出す怪作」田川啓介脚本「誰」上演パンフレット推薦文，2015年4月16日。
- ・「若者における対人関係の現状と課題－ソーシャルメディアとの関わりから－」『全学FDニュース』第17号，2～28頁，2015年4月30日，東京経済大学。
- ・「若者のスマホ・トラブル－本質は日々の人間関係に－」『中国新聞』オピニオン面，2015年5月12日。
- ・「イツメンの闇－子ども取り囲む「地雷原」－」『北海道新聞』，11面，2015年5月22日。
- ・「みつめる少年事件－子どもの「居場所」考えたい－」『読売新聞』，地域横浜

- 面, 2015年5月30日.
- ・「子どもの命と心をどのように守るか」『教育展望』第61巻第5号, 4～10頁, 2015年6月1日, 教育調査研究所.
  - ・「オープンな親子関係が大切」『朝日新聞』朝刊・地域面(横浜), 2015年6月9日.
  - ・「子どもが危ないー深刻化するネットの闇ー」『山陽新聞』朝刊28頁, 2015年6月11日.
  - ・「イッメンの調和が崩れたー愛知県刈谷市高校生集団暴行事件ー」『アエラ』第28巻第27号, 59頁, 2015年6月22日.
  - ・「若者の犯罪数を上回った暴走老人の実態」『夕刊フジ』3頁, 2015年7月2日.
  - ・「深夜徘徊する子どもたちースマホで埋まらぬ寂しさー」『中国新聞』, オピニオン(6面), 2015年9月15日.
  - ・「普通の子がなぜ深夜徘徊?ー人間関係の不安を反映ー」『北海道新聞』, 各自核論(9面), 2015年9月18日.
  - ・「日常知としての社会学ー人と人のつながりこそが人生の幕を上げるー」高校生応援サイト『みらいぶプラス』2015年10月, 河合塾.
  - ・「ネット社会にひそむ意外な落とし穴」『ひょうご人権ジャーナル・きずな』11月号, 4頁, 2015年11月1日, 兵庫県人権啓発協会.
  - ・「居場所ーリスク化する社会の拠り所ー」井上俊・永井良和編『今どきコトバ事情』134～137頁, 2016年1月30日, ミネルヴァ書房.
  - ・「新型うつー深まる承認不安の果てー」井上俊・永井良和編『今どきコトバ事情』180～183頁, 2016年1月30日, ミネルヴァ書房.
  - ・「内閉化した人間関係の病理ーいじめ対応の新しい視点ー」『月刊生徒指導』第46巻第2号, 30～32頁, 2016年2月1日, 学事出版.
  - ・「ホントの友だちって?ーあえて深い関係を結んでみようー」『創価新報』第772号, 4頁, 2016年2月17日, 聖教新聞社.
  - ・「入試問題では問えなかった若者と教育をめぐる宿命主義 vol. ～ 1 vol. 6」高校教育サイト『キミのミライ発見』2016年2～3月, 河合塾.
  - ・「内閉化し独善化した規範意識の発露ーネットを介した暴行事件はなぜエスカレートするのか?ー」オピニオンサイト『iRONNA』2016年3月1日, 産経デジタル.
  - ・「若者の幸福観をめぐる光と影」『北海道新聞』各自核論(9面), 2016年3月5日.

## ○野上 元

### 【著書】

- 1 「水木しげる —— ある帰還兵士の経験」栗原彬・吉見俊哉編『敗戦と占領——1940年代(ひとびとの精神史 第1巻)』岩波書店, p73 - 98

- 2 野上元・小林多寿子編『歴史と向きあう社会学：資料・表象・経験』ミネルヴァ書房，序章「社会学が歴史と向きあうために」p1 - 21  
第9章「新自由主義時代の歴史観光まちづくり」p195 - 219
- 3 「市民社会の記述と市民／国民の戦争」内田隆三編『現代社会と人間への問い－いかにして現在を流動化するのか？』せりか書房，p398 - 422

#### 【報告】

- 1 「戦争史記述の社会的規準」第88回日本社会学会大会（シンポジウム(2)「戦争をめぐる社会学の可能性」），於早稲田大学戸山キャンパス，2015年9月20日
- 2 “War Experience/Memories of War” in Modern and Contemporary Japan’, Session B3: Shaping Memory and Society in Post-War Japan, 44th Annual Mid-Atlantic Region Association for Asian Studies Conference at University of Pittsburgh, USA, October 10, 2015

#### 【その他】

- ・「近現代史の社会学」光文社新書メールマガジン62，64，66 - 72号

#### ○黄 順姫

##### I. 【著書（編著）】

- ・ Soon-Hee Whang, “The Circulation of Korean Pop: Soft Power and Inter-Asian Conviviality” Eric Tagliacozzo, Helen Siu, and Peter C. Perdue (ed.) Asia inside Out Volume II: Connected Places, Harvard University Press, 2015, Pp.381-399
- ・ SoonHee Whang, “The Body as Culture: The Case of the Sumo Wrestler”, Richard Giulianotti ed., Sociology of Sport, Vol.3., Sage Publications Ltd., 2011, Pp.133-148.

##### II. 【訳書】

- ・「集団形成的原理」井上俊・伊藤公雄編，張文頌訳『日本の社会与文化』世界知識出版社（中国），2015年，139 - 147頁。

##### III. 【国内外研究発表・研究活動】

1. 「大学教員・学生を巡るリスク社会の緩和－同窓会，地域社会との連携で－」，「特設ラウンドテーブル，テーマ：教員と子どもの関係－教員の子も親と指導のありかた－」日本子ども社会学会第22回大会，2015年6月27日，愛知教育大学。
2. （コーディネーター・司会）「特設ラウンドテーブル，テーマ：教員と子どもの関係－教員の子も親と指導のありかた－」日本子ども社会学会第22回大

- 会，2015年6月27日，愛知教育大学.
3. 「スポーツ文化の日本・韓国比較」，2015年10月8日，鹿屋体育大学 大学院棟演習室Ⅲ.
  4. 「韓国・日本における教育とスポーツ文化の比較」，「韓国・日本比較講演会シリーズ2015」，2015年8月4日，韓国大使館文化院
  5. 「同窓生・地域住民が大学生の学問知を再構築する」，「シンポジウム大学生，大学，地域を活性化するにはーいまどき大学生ライフと同窓生・住民の紐帯が産・学人材を育成するー」筑波大学メンター会第19回大会，筑波大学リサーチユニット「グローバル共存・共生社会を生きる」共催，2015年11月6日，BIVI 筑波大学サテライトオフィス.
  6. (コーディネーター)「シンポジウム大学生，大学，地域を活性化するにはーいまどき大学生ライフと同窓生・住民の紐帯が産・学人材を育成するー」筑波大学メンター会第19回大会，筑波大学リサーチユニット「グローバル共存・共生社会を生きる」共催，2015年11月6日，BIVI 筑波大学サテライトオフィス.
  7. (司会)「教育と進路(研究発表セクションⅣ)」日本教育社会学会第67回大会，2015年9月10日，駒沢大学.
  8. (コーディネーター)「大学生活で創生する将来の自分・生き方」，筑波大学メンター会第18回大会講演会，2015年6月17日，筑波大学 1H101.
  9. (コーディネーター)，筑波大学メンター会第20回就職懇談会派遣事業，2015年11月3日，筑波大学共同利用棟 A201.
  10. (コーディネーター)「大学教育のためのアクティブ・ラーニングの活性化ー高・大連携の逆転の発想」，筑波大学メンター会21回大会，2015年12月3日，筑波大学 1D204.

○森 直人

【論文】

- ・「教育システムと就業——『教育の機会均等』と社会保障をどうつなげるか」『季刊社会保障研究』第51巻第1号，6-17頁，2015年6月.

【報告書】

- ・『戦後日本社会における都市化のなかの世帯形成と階層構造の変容』東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター，2016年3月.

【書評】

- ・「野村正實『学歴主義と労働社会——高度成長と自営業の衰退がもたらしたもの』(ミネルヴァ書房，2014年)」『大原社会問題研究所雑誌』689号，71-74頁，2016年3月.

### 【口頭発表】

- ・「労働・福祉・高齢調査における社会階層と生活構造」二次分析研究会2015課題公募型研究成果報告会『戦後日本社会における福祉社会の形成過程にかんする計量社会史』, 2016年3月14日, 於東京大学.
- ・「天野郁夫と教育社会学」日本教育社会学会・第4回若手研究セミナー, 2016年3月26日, 於東京理科大学.
- ・(司会・コーディネーター)「戦後の教育政治を問い直す」日本教育社会学会第67回大会(課題研究I), 2015年9月10日, 於駒澤大学.

### ○龜山 新

#### 【論文】

- ・「慈善と社会連帯のあいだ——日本と中国における社会的権利の形成をめぐって」『社会学評論』日本社会学会, 第261号, 2015年6月, 2-18頁.
- ・「災害体験とチャイニーズネス——1920年華北大飢饉を事例に」『日中社会学研究』日中社会学会, 第23号, 2015年8月, 55-64頁.
- ・「近代中国における社会調査の実践と困難——李景漢の社会調査論と中国農村社会」『社会学ジャーナル』筑波大学社会学研究室, 第41号, 2016年3月, 1-24頁.

#### 【学会報告】

- ・「災害体験とチャイニーズネス——1920年華北大飢饉を事例に」日中社会学会第27回大会, シンポジウム「中国の身体とチャイニーズネス」北海道大学, 6月7日.

### ○後藤 美緒

#### 【論文】

- ・「現実と空想のあいだ——国際ロビイスト田中清玄と転向経験」『社会学ジャーナル』筑波大学社会学研究室, 第41号, 2016年3月, 25-44頁.

## 大学院生(社会科学専攻, 国際公共政策専攻)業績一覧(2015年度)

### ○赤羽由起夫

#### 【学位論文】

- ・「子どもの『心』と逸脱の知識社会学——少年犯罪報道における心理主義化を対象として」筑波大学博士(社会学)請求論文, 2016年3月.

#### 【論文】

- ・「『現実と虚構の混同』と少年犯罪——聖・俗・遊の図式を用いた犯罪原因論の考察」『社会学ジャーナル』第41号, 筑波大学社会学研究室, 2016年3月, 81-94頁.

#### 【学会報告】

- ・「心理主義化論の再構成——デュルケム道徳論と個人化論の視点から」日本社会学会第88回大会, 自由報告, 早稲田大学, 2015年9月19日.

### ○秋本光陽

#### 【論文】

- ・「犯罪少年の「責任」はいかにして組織されうるか」『ソシオロゴス』第39号, ソシオロゴス編集委員会, 191-210頁.
- ・「少年司法制度研究に対する漂流理論の意義——D. Matzaによる「柔らかい決定論」の再検討を通して」『現代社会学理論研究』日本社会学理論学会, 2016年3月(近刊).

#### 【学会報告】

- ・「少年犯罪に対する親の『不作為』という視点——米カリフォルニア州における『親の刑事責任法』に着目して」第88回日本社会学会(自由報告), 早稲田大学戸山キャンパス, 2015年9月19日.

### ○石川千穂

#### 【論文】

- ・「日本の学校音楽言説における「感性」の変遷」(研究ノート)『社会学ジャーナル』第41号, 筑波大学社会学研究室, 2016年3月, 121-130頁.

### ○岡村逸郎

#### 【論文】

- ・「犯罪被害者支援における『対等』な支援者・被害者関係の社会的構築——2次被害の概念を用いた被害者学者の活動に関する歴史的考察」『犯罪社会学研究』第40号, 87-99頁.

#### 【学会報告】

- ・「被害者援助の言説にかんする歴史的考察——精神医学者・臨床心理学者の諸



活動に注目して」福祉社会学会第13回大会，自由報告第2部会第1報告，名古屋大学東山キャンパス，2015年6月13日。

- ・「被害者の有責性の概念に関する歴史社会的考察——被害者学者・宮澤浩一の言説実践に注目して」日本社会学会第88回大会，社会病理・逸脱（2）第1報告，早稲田大学戸山キャンパス，2015年9月19日。

○川村智樹

【論文】

- ・「いかにしてドメスティック・バイオレンスの犯罪化は達成されたのか——犯罪化の2つの形式に着目して」『犯罪社会学研究』第40号，115-28頁。

【学会報告】

- ・「暴力にさらされて育つ男性の『生きづらさ』——1990年代前半から2000年代前半のDV言説の布置連関に着目して」日本社会学会第88回大会，自由報告，早稲田大学，2015年9月20日。
- ・「夫婦間での暴力からDVへ」日本犯罪社会学会第42回大会，桐蔭横浜大学，2015年11月21日。

○栗山靖弘

【論文】

- ・「『進路形成』概念の整理と検討——教育学・教育社会学における進路形成研究のレビューを通して」（研究ノート）『社会学ジャーナル』第41号，筑波大学社会学研究室，2016年3月，95-119頁。

【学会報告】

- ・「『実績関係』を介したスポーツ推薦入試に関する研究——強豪校野球部員の大学進学における進路形成を手がかりとして」日本スポーツ社会学会第25回大会，一橋大学，2016年3月20日・21日。

○周筱

- ・Xiao ZHOU, 2015, The Birth of “Women children” : Focused on Clause 360 in Criminal law of The people Republic of China, 第4回東アジア法社会学会，早稲田キャンパス，2015年8月5日。
- ・Xiao ZHOU, 2015, “Recent Reform in Police Investigation Procedure in Japan” 中国・四川，四川警察学院，2015年10月30日。
- ・周筱，「(法)の再解説：法学研究における社会学思考法の位置づけ」中国法社会学学会第5回大会「法と社会」シンポジウム，中国，重慶，西南政法大学，2015年11月28日（中国語報告）

○鈴木優子

【論文】

- ・「『Being for me』（自分のためにいてくれる人）を求める子どもたち —— 中学生のメール依存とメディア特性」『青少年問題』第659号，46-51頁。

○高橋康史

【論文】

- ・「『加害者の家族』としての自己との距離化とその社会的機序 —— 体験の語り得なさに注目して」『犯罪社会学研究』第40号，100-114頁。
- ・「犯罪者を家族にもつ人びとのスティグマと不可視性 —— 情報の管理／操作の実践に着目して」『社会学ジャーナル』第41号，筑波大学社会学研究室，2016年3月，63-80頁。

【学会報告】

- ・「刑余者の地域生活の維持に関する社会福祉学的考察—グループホーム入居者の事例から」日本司法福祉学会第16回全国大会，早稲田大学早稲田キャンパス8号館，2015年8月9日。
- ・「家族内犯罪の経験とアイデンティティ管理」，日本犯罪社会学会第42回大会，桐蔭横浜大学，2015年11月21日。

○永田大輔

【論文】

- ・「『代弁者』としてのオタク語り —— 1980-1990年代の批評的言説を中心として」『ソシオロゴス』39号，2015年9月，154-173頁。
- ・「ビデオにおける「教育の場」と「家庭普及」 —— 1960年代後半-70年代の業界紙『ビデオジャーナル』にみる普及戦略」『マス・コミュニケーション研究』第88号，137-155頁。

【学会報告】

- ・「アニメブームとはいかなる経験だったのか —— 1970年代から80年代のアニメ産業の変容」日本社会学会第88回大会，自由報告，早稲田大学，2015年9月19日。

【書評】

- ・「山崎鎮親著『半径1メートルの想像力』」『教育』2016年2月号。

【連載】

- ・「ライトノベルそむりえによる一冊」河合塾ウェブサイトみらいぶ。

○野上亮

【学会報告】

- ・「職場文学の誕生 —— 八幡製鉄を事例として」第88回日本社会学会大会，一般

研究報告，早稲田大学戸山キャンパス，2015年9月19日。

○松山礼華

【論文】

- ・「若者の「公共性」形成に関する一考察——地元のまちづくり団体で活動する若者の事例分析を通して」『社会学ジャーナル』第41号，筑波大学社会学研究室，2016年3月，45-62頁。

【学会報告】

- ・「若者の地域参加に向けたプロセスと組織構造に関する一考察——千葉県柏市のまちづくり団体を事例に」地域社会学会第40回大会，東北学院大学，2015年5月9日。
- ・「『若者の「公共性」形成に関する一考察——地元のまちづくり団体で活動する若者たちの事例分析を通して』第63回関東社会学会大会，千葉大学，2015年6月6日。

○宮地弘子

【学位論文】

- ・「ソフトウェア開発現場における自発的・没入的労働のエスノメソドロジー——X社開発部門で働くエンジニアたちの語りから」博士学位（社会学）請求論文，2015年10月。